

# nihuINT とジャパンサーチとの連携について

大内英範<sup>1</sup>

**概要：** 2019年2月、「国の分野横断統合ポータル」である「ジャパンサーチ」が一般向けに公開された。これは各分野の「つなぎ役」を介してデータを収集し、検索に供する仕組みをとっている。人間文化研究機構は人文学分野の「つなぎ役」として、まずは統合検索システム nihuINT からのデータ提供を開始した。本報告では、データ提供に際して問題となった点や、「つなぎ役」としてのメリット、今後の展望などを述べる。

**キーワード：** nihuINT, DB 連携, ジャパンサーチ,

## Cooperation between nihuINT and Japan Search.

HIDENORI OUCHI<sup>†1</sup>

### 1. はじめに

2019年2月、「ジャパンサーチ」[a]が一般向けに公開された。ジャパンサーチとは、内閣府知的財産戦略本部によって政策的に進められた「書籍等分野、文化財分野、メディア芸術分野など、さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携して、我が国が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる『国の分野横断統合ポータル』」(参考文献[1])のことである[b]。

ただし、2019年12月末現在、一般向けではあるが「試験版」であり、名称も「ジャパンサーチ (BETA)」である。とはいえ、すでに21機関から61データベース、1,966万件以上のデータを収集し[c]、検索に供している、国の巨大なポータルサイトであり、その運用は、内閣府知的財産戦略本部「デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会」([b]参照)の方針の下で、国立国会図書館が担っている。

ジャパンサーチは、原則として実際にデータを所有するさまざまなアーカイブ機関から、分野別の「つなぎ役」を介してデータを収集することになっている。人間文化研究機構では、2017年5月ごろより議論を開始し、人文学分野での「つなぎ役」となり、まずは nihuINT に搭載されている、機構内機関のデータベースの中から、各機関において提供可としたものについて、提供をはじめることとした。

### 2. 「nihuINT」からのデータ提供

人間文化研究機構を形成する6つの機関[d]は、それぞれ所蔵図書目録、リポジトリのほか、資料情報、研究成果など多種多様なデータベースを公開している。ユーザーがこれらの所在や各操作方法などを意識することなく、まとめて1回の操作で検索するためのシステムとして作られたのが「統合検索システム nihuINT」[e]である。

各機関で作成された各データベースのデータファイルを、nihuINT にアップロードし、共通のメタデータを付した上で検索に供している。国立国会図書館サーチ、京都大学東南アジア地域研究研究所とも双方向連携し、現在174DB、560万レコード以上の検索を可能としている。

前述のように、人間文化研究機構では2017年5月ごろより、データ提供についての議論を開始した。ジャパンサーチ推進の前提として、「文化の保存・継承・発信だけでなく、観光や地方創生、教育研究、ビジネスへの利用など、新たな価値創出、イノベーション推進」(参考文献[1])を謳っており、原則としてメタデータはCC0(著作権を放棄)、サムネイル画像はCC-BY(配布にあたり著作権者の表示を要求)を原則としている。そのため、各機関での議論を経て、上記のような条件での提供を原則としつつ、場合によってデータベースごとに個別の権利表示をすることを前提に、6機関で57データベースを提供することとなった。

2019年12月現在、人間文化研究機構からジャパンサーチに提供し、公開されているデータベースは以下の通りである。なお一部のデータベースについては、nihuINT のメタデータではなく、nihuINT に登録するための原データでの提供である場合もある。また、国立民族学博物館は

<sup>1</sup> 人間文化研究機構  
National Institutes for the Humanities

a) <https://jpsearch.go.jp/>

b) 議論の過程は“デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会、実務者協議会及びメタデータのオープン化等検討ワーキンググループ”。  
[http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive\\_kyougikai/index.html](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_kyougikai/index.html), (参照 2020-01-07)および“デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会”。

[http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive\\_suisiniinkai/index.html](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/index.html), (参照 2020-01-07)を参照のこと。

c) “現在のデータ”。<https://jpsearch.go.jp/stats>, (参照 2020-01-07)による。

d) 国立歴史民俗博物館 (<https://www.rekihaku.ac.jp/>)、国文学研究資料館 (<https://www.nijl.ac.jp/>)、国立国語研究所 (<https://www.ninjal.ac.jp/>)、国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp/>)、総合地球環境学研究所 (<http://www.chikyu.ac.jp/>)、国立民族学博物館 (<http://www.minpaku.ac.jp/>)

e) <https://int.nihu.jp/>

nihuINT からのデータ提供ではなく、機関から直接ジャパンサーチにデータを登録している。

■国立歴史民俗博物館

国立歴史民俗博物館学術情報リポジトリ/館蔵資料目録

■国文学研究資料館

吾妻鏡/絵入源氏物語/二十一代集/コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録/古筆切所収情報/新奈良絵本/歴史人物画像/近代文献情報(明治期出版広告)/連歌・演能・雅楽/歴史物語/日本実業史博物館コレクション/蔵書印

■国立国語研究所

『方言文法全国地図』地図画像/『日本言語地図』地図画像/米国議会図書館本源氏物語翻字本文/国立国語研究所学術情報リポジトリ

■国際日本文化研究センター

宗田文庫図版資料/ちりめん本/平安京都名所図会/季語検索/在外日本美術/日本関係欧文図書目録/日文研オープンアクセス

■総合地球環境学研究所

映像資料/生態史文献資料/生態史写真資料/西表文献

■国立民族学博物館

標本資料目録/標本資料記事索引/映像資料目録/ビデオテーク/音響資料目録/みんぱくりポジトリ/梅棹忠夫著作目録(1934~)/雑誌目録/音響資料曲目/カウフマン・アフリカ古地図コレクション/図書目録

(以上6機関40データベース)

### 3. データの活用

上記のうち、nihuINT のメタデータを提供したデータベースに関しては、原則としてジャパンサーチの検索結果から nihuINT のデータへのリンクが表示される。さらに nihuINT 上で原データへのリンクをクリックすれば、当然、機関のデータベースで原データを見ることができる。

ジャパンサーチでは、web 上での検索のほか、API によってさまざまな形での利活用を可能としている。中心的に利用されると想定されるのが SPARQL API だが、簡易的な Web API 機能によるデータ取得もできるようになっている(参考文献[2])。

ジャパンサーチとの連携によって、nihuINT が持つ日本の人文学に関する多種多様なデータを、他のさまざまなアーカイブ機関のデータと連携させて利用できるようになった。もちろん、ジャパンサーチでデータを見つけた利用者がリンクを辿ってきたり、関連情報を直接探しにくることで、nihuINT や各機関のデータベースの利用増も見込まれる。

### 4. おわりに

ジャパンサーチと連携するにあたって、機構内での議論

を経たことは既述したが、データベースによっては利用条件や権利表示などが曖昧だったものをきちんと整えるための、見直し・整理のきっかけとなったように思われる。

また、ジャパンサーチのような巨大なポータルでは、細かい検索要求よりも、むしろまずは辞書・百科事典的な大きな項目の検索をしつつ、段階的に細かく絞り込んでいくような利用が多いのではないかと、つまり大項目に相当するシソーラスのようなデータベースがあると利便性が高まると思われる。人文学分野では人間文化研究機構が積極的に作っていく必要があると感じている。

なお、上記40データベースのほか、2019年度中に提供・公開データベースの追加を行なうための準備を進めており、連携はさらに広がる予定である。

### 参考文献

- [1] “ジャパンサーチとは?”。 <https://jpsearch.go.jp/about/>, (参照 2019-01-07).
- [2] “開発者向け情報”。 <https://jpsearch.go.jp/api/>, (参照 2020-01-07).



図1 ジャパンサーチ



図2 同一データ(左ジャパンサーチ, 右 niHUINT)